

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (基盤教育科目)

学習・教育目標	(α 英語)	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β スポーツ)	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ 教養)	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができています。		

				学習・教育目標の項目との関連								
		授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	α	β	γ	A	B	C	D	E
初期導入科目		大学生活を送るうえで必要とされる、自主的かつ自律的な態度および学習の進め方を学ぶことができるように企画された科目である。	各学習・教育目標を達成する基礎として、新入生を大学における学習全体へと導く役割を担う必修科目である。	・日々の生活や学習における自己管理、時間管理ができるようになる。 ・大学という場を理解するとともに、学習を進めるうえで必要な知識、技能を身につける。 ・将来的なキャリア形成を見通しながら自己を認識し、それぞれの専門分野とつながりのある職業について学ぶことで、今後4年間の過ごし方について考え始める。	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リテラシー科目	英語	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skills の養成後、Oral Communication とReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral Communication とWritingを主とした4skills の育成を図る。2年次以降の「Advanced English I、II、Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。TOEICによりクラス分けを行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍している集団的スポーツと個人的スポーツ(軽スポーツ的な内容を言及)から、学生は、希望の種目を受講する。自己の体力および心身の健康への認識を深め、運動する楽しさ、ストレス発散、技能の向上を図る。チームワークを高め、試合運営について熟知できるようにして、様々な人達と接する機会を増やしなが、グループ間での学び合いなど、社会・対人関係力の形成に努める。また、運動する楽しさや意欲的な学習への動機づけをも行う。 以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通して心身の健康を維持し、体力向上への意識づけ	地球の視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身につけている。	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	スポーツと健康	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skills の養成後、Oral Communication とReadingを主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral Communication とWritingを主とした4skills の育成を図る。2年次以降の「Advanced English I、II、Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。TOEICによりクラス分けを行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍している集団的スポーツと個人的スポーツ(軽スポーツ的な内容を言及)から、学生は、希望の種目を受講する。自己の体力および心身の健康への認識を深め、運動する楽しさ、ストレス発散、技能の向上を図る。チームワークを高め、試合運営について熟知できるようにして、様々な人達と接する機会を増やしなが、グループ間での学び合いなど、社会・対人関係力の形成に努める。また、運動する楽しさや意欲的な学習への動機づけをも行う。 以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通して心身の健康を維持し、体力向上への意識づけ	生涯にわたる豊かなライフスタイルの形成に向けた心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解させる科目である。	身体・体力面(自己コントロール、適応力、耐力、自律性、達成感など)とともに社会・対人関係面(共感性、リーダーシップ、協調性、連帯感、コミュニケーションなど)における能力が身につけている。	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	情報処理基礎	情報化社会で必要不可欠とされる情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力を学び、情報活用の実践力を養い、情報の科学的理解を深める。	すべての学生が共通に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。	情報社会に創造的に参画する素養を身につける。	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
教養科目	人文科学系科目	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身につけている。	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	社会科学系科目	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身につけている。	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自然科学系科目	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地理」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と獨創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身につけている。	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	健康科学	大学在学中および将来にわたって生活の基盤となる「運動」、「栄養」、「休養」に関する諸科学を修得することで、健康科学に関する幅広い教養と実践力を身につけることを目指している。「スポーツの文化や社会での役割、トレーニング法とその効果」に関する科目、「食と栄養」に関する科目、「心身の健康」に関する科目などから各自の学習計画に応じた必要科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの健康科学系の科目である。	生活の質的充実の基盤となる食事や健康の重要性とスポーツの果たす役割やスポーツが本来有する「楽しみ」を知り、自ら健康を維持増進させるための基本的な知識と実践力が身につけている。	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
初習外国語系科目	大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎 I、II、III、IV」を開設する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用 I、II」を開設する。一つの言語について6つ段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身につけている。	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	総合系科目	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性が身についている	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	基礎キャリア教育科目	「自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな大学生活を送ったらよいか、どんな職業選択をするか」を意識しながら学び、職業や働き方への理解や自己理解を深めていく。座学だけでなく、グループワークやインタビュー、外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことを重視し、学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成を図る。	学生の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度(キャリアデザイン能力)の基礎を育成するための科目である。	変化する社会の中で未来を切り拓く力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢、職業や働き方への理解、自己理解を深めるために必要な知識・技能等を修得し、自らキャリアデザインを描く基礎が身についている。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.4	0.3	
	専門導入科目												
	科目担当者氏名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	α	β	γ	A	B	C	D	E	
	教育原論 渡邊弘	本授業では、「教育」という言葉の発生的定義に基づき、西洋と日本の教育の歴史的展開にみられる問題を捉え、今後の教育の在り方について、特に子ども観・形成観および教育の意識改革とシステム改革の2つの視点から、さまざまな具体的な教育問題について考えさせ、理	教職に関する基礎的知識を修得し、自らの専門分野について理解すること	本稿の目標は、次の4点である。①「教育」という言葉の意味の理解 ②子ども観・形成観の理解 ③教師の役割と資質についての理解 ④現代の教育システムについての理解	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	教育原論 上原秀一	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴について、基礎的な知識を修得する。	「基礎教育科目」の教育学部「専門導入科目」の必修科目である。教員免許を取得するための必修科目である。	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	
	教育心理 橘川真彦	教育心理学の主要な内容である幼児・児童・生徒(障がいを持つ者を含む)の成長と発達、学習と学習指導、パーソナリティと適応、測定と評価について、講義する。	「基礎教育科目」の教育学部「専門導入科目」の必修科目である。教員免許を取得するための必修科目である。	教育心理学の基礎的知識や研究法を学習して、幼児・児童・生徒を理解するために必要な教員としての最低限の資質・能力を身につける。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	
	教育課程及び方法・技術 青柳宏	グローバル化する世界における内外の学校改革の動向を検討することを通じて、望ましい教育課程・教育方法のあり方について、また教育課程の編成の方法及び教材の活用の仕方(情報機器の活用を含む)について考察していく。	学部の専門科目修得への基礎を培う科目で有り、教員免許取得のための必修科目である。	教育の目的との関係性において教育課程のあり方とその意義を理解し、さらに教育課程の編成の方法について理解する。また教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方を理解する。さらに教材の活用の仕方、情報機器の活用の仕方について理解する。	0.0	0.0	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	
	特別支援教育基礎論 岡澤慎一・池代本喜正・梅永雄二・司城紀美	本授業では、主として初めて特別支援教育を学ぶ人を対象に、障害の捉え方、障害を有する子どもたちの発達特性と教育の基礎的な事項について概説し、特別支援教育についての基本的知識の獲得と関心を深めることを目的としている。本授業は、これから特別支援教育の専門科目を学ぶための入門編となる内容であるとともに、特別支援学校での介護等体験に参加する学生にとっては、障害を有する子どもたちに対する基本的な理解を深めるための事前指導(事後指導)となるように留意しているものである。	教員免許取得のための選択必修科目であるが、特別支援教育は、学校種や科目を越えて、教師を目指すすべての人が学ぶべき事柄であると思われる。また、特別支援教育専攻の専門科目へ導く基礎的な内容でもある。	障害の捉え方、障害のある子どもの教育制度や障害を有する子どもたちの発達特性など基礎的な事項について理解・説明することができる。	0	0	0	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1	
	生涯学習概論 木本英	教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら、「生涯学習」が、どのように理解され、どのようにして実践されるべきかについて、受講者自身が考えていけるように講義する。	講義を受けている時間だけが学習時間だと限定してしまうことなく、日常生活の中で普段から、「いつでも、どこでも、だれからでも、なにからでも、どのようにでも」自ら学び取っていく貪欲さを持つよう	授業で重視している目標は、①生涯学習および社会教育についての基礎知識の習得、②生涯学習時代への主体的・能動的対応として「考える方法」を考えること、③生涯学習実践の中心的課題として「自分自身を学ぶ」ということの学習、の3点である。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.5	0.1	
	現代福祉事情 谷川万由	日本の社会福祉の歴史や人口動態等社会保障の必要となる現状について概観したのち、日本社会のさまざまな課題とそれらへの対応を具体的に学ぶ。	総合人間形成課程の専門導入科目の一つとして、現代社会や福祉への基礎的な知識を提供し、この分野への関心を持つようにする。	社会福祉や社会保障に関する基礎的知識や保護者との関係形成や他機関・他施設との連携するために必要となる知識を身に着ける。また子どもや地域の課題を多角的に検討する力を身に着ける。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0.0	0.3	0.2	
	環境教育 公居誠一	この授業では環境、環境問題および環境教育の基礎について理解を深めます。	現代社会の直面する課題について理解を深め、判断力を養う。	環境問題についての一般的な知識を獲得することと、環境教育の意義と方法について基礎的理解ができるようになります。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0.0	0.3	0.2	
	情報教育 石川賢	社会や文化の形成に関する知識の修得に必要な情報教育の基礎について講義・演習する。具体的には情報教育の目標・内容、教育の情報化の状況、情報活用能力の育成、情報モラル等について取りあげる。また、学習指導へICTを活用する基礎的な方法について演習する	教職・教科に関する知識を修得し、発達段階に応じた教材を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明がで	・学校教育における情報化の状況と情報教育の目標・内容を説明することができる。 ・学習指導へICTを活用する基礎的な方法が身についている。	0	0	0	0.4	0.1	0.4	0.1	0	
	健康教育 小宮秀明・久保元芳	児童生徒の健康と安全についての知識を主体、環境、行動の面から総合的に学ぶ。また、学校や地域などの現場で健康教育の指導者として身につけておくべき理論や指導方法についても学ぶ。	基礎教育課程の中の専門導入科目であり、小・中・高等学校における児童生徒の問題となっている体力低下、健康問題や疾病予防に関する基礎的な知識を養成する。	・子どもの心身の健康に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。 ・子どもの健康を守り、育てるための理論や方法について理解している。 ・学習した知識を基に、学校現場や地域で実践できる能力を身につけている。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1	
	小学校外国語活動の理論と実践 渡辺浩行、他	小学校外国語活動の基礎を理論と実践の両面から学ぶ。	教員採用条件として重要視されている小学校外国語活動の指導技術の基礎を身につける。	小学校での実践を分析、検討し、現実に即した授業を計画・実施・振り返りの意欲が身についている。小学校外国語活動の実践に必要な基礎的知識、授業実践に関する考察力、現実に即した授業を計画・実施し、それを振り返り、さらに授業改善ができる基礎能力が身についている。	0.1	0	0	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	

小学校 外国語 活動の 理論と 実践	山野有 紀	小学校外国語活動の基礎を理論と実践の両面から学ぶ。	教員採用条件として重要視されている小学校外国語活動の指導技術の基礎を身につける。	小学校での実践を分析、検討し、現実に即した授業を計画・実施・振り返りの意欲が身についている。小学校外国語活動の実践に必要な基礎的知識、授業実践に関しての考察力、現実に即した授業を計画・実施し、それを振り返り、さらに授業改善ができる基礎能力が身についている。	0.1	0	0	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2
グロー バル化 と外国 人児童 生徒教 育	丸山剛史	授業では、①外国人児童生徒教育の意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行う。	教職に関する共通的・基礎的内容の学習をふまえ、現代的教育課題に的確に対応するための発展的内容である。	・外国人児童生徒教育の現状と課題がわかる。 ・外国人児童生徒教育問題の論点がわかる。	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0